

# リハビリニュース No. 49

## ～脱臼について～

・脱臼とは、関節を構成している関節端が解剖学的状態（筋肉や靭帯等の組織が正常な状態）から完全または不完全に転移して、関節面の生理的相対関係（関節を構成するために必要な関係）が失われている状態のことをいいます。

### 《発生頻度・好発部位》

脱臼の多い年齢・性別は、外傷を受ける機会の多い青壮年（20～50代前後）の男子、特にスポーツ選手、肉体労働者に多く、一般的には靭帯損傷の少ない関節（肩・肘・肩鎖関節）に多いといわれています。

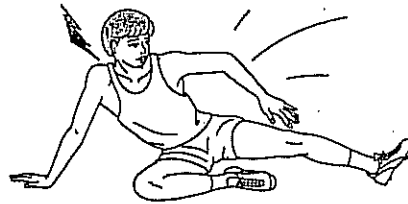
### 《受傷機転》

脱臼は直達（直接的）外力や介達（間接的）外力により起こり、直達外力では転倒や墜落、介達外力では転倒の際ほかの関節を跨いで起こるといわれています。  
+α【筋力によるもの（自家筋力）も含まれる】

（例）



直達外力



介達外力



自家筋力

### 《脱臼の分類》

	説明
反復性脱臼	外傷による脱臼に続発するもので、多くは初回治療の中止などの固定期間の不足、脱臼を阻止する筋肉や腱の付着部剥離などで、軽微な外力や筋力により繰り返すといわれています。特に10代に発生した外傷性肩関節脱臼は、反復性脱臼になりやすいといわれています。
習慣性脱臼	明らかな外傷の既往がなく、関節部の発達障害、関節の弛緩（緩み）などがある方に起こりやすいといわれています。
随意性脱臼	自分の意思で関節を脱臼させることや、元の位置に戻すことができることといわれています。

### 《固有症状》

弾発性固定：関節運動を行うとゴムのように戻ることをいいます。

関節部位の変形：①関節の軸の変化、②関節自体の変化、③脱臼肢（肩なら腕の長さ）の長さの変化などが挙げられます。

### 《経過と予後》

脱臼をそのまま放置、また不十分な整復を施して日時を経過すれば、疼痛（痛み）や腫脹（はれ）は徐々に消退し、機能も多少回復しますが、とうてい十分な機能を果たしえないといわれています。しかし、合併症（血管や神経の損傷など）の程度や経過にもよりますが、一般的には的確な整復や固定、治療を行うことにより全治し予後は良好といわれています。